

# 病害虫情報

## 暖冬傾向により、春先の病害虫の発生に注意が必要です

### 1 高温傾向が続いています

今年の冬は記録的な高温傾向となっています(図1、2)。気象庁の1か月予報(3月19日発表)によると、今後も高温傾向は続く見込みです。

暖冬により、育苗ハウス等の温湿度上昇により病害虫の発生も早まり、露地栽培でも、萌芽や開花期の前進により防除タイミングが遅れる可能性があります。生育等をみながら、適期に防除を行いましょう。なお、使用する薬剤については、「令和2年農作物病害虫・雑草防除基準」を参考にしてください。

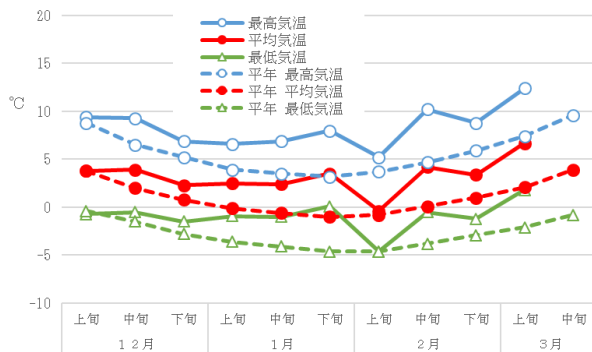


図1 気温の推移(長野) 平年:1981~2010年

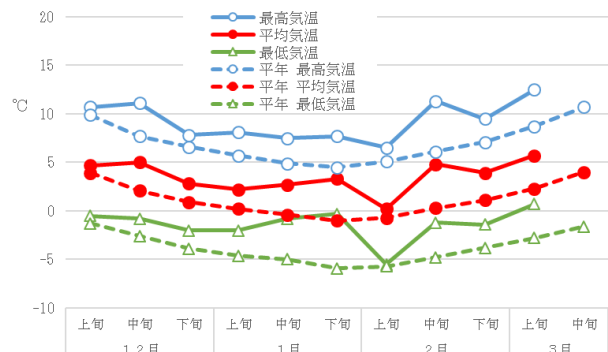


図2 気温の推移(松本) 平年:1981~2010年

### 2 作物関係

#### (1) 麦類のさび病類・うどんこ病

春先の気温が高く、雨が多いと発生しやすいので、発生初期を見逃さないように注意し、適期防除に心がけましょう。

#### (2) 麦類の赤かび病

出穂期、開花期が早まると予想されるので、防除適期を逃さないように注意してください。

開花期から2週間程度が特に感染しやすい時期であり、この時期の気温が比較的高く、降雨・曇天が続くと多発します。開花期の防除は必ず実施し、多発が予想される場合は10~14日後に追加防除を行ってください。赤かび病の病原菌は毒素を産生し、農産物検査法で赤かび粒混入率が0.0%以下(未検出)と定められていますので、必ず防除を実施しましょう。

### 3 果樹関係

#### (1) 越冬病害虫

本年は暖冬傾向のため、病害虫の発生が早まる可能性があります。生育に合わせた防除を実施してください。

粗皮削りは、越冬害虫の密度を下げる大事な作業ですので必ず実施しましょう。なお、粗

皮削りは、リンゴ腐らん病、赤衣病、ハダニ、ヒメボクトウ等の枝幹病害虫の早期発見にもつながります。

また、休眠期防除も今後の病害虫の発生を左右する大事な防除です。これから発芽期を迎えるリンゴ、ブドウ等では防除が遅れないよう必ず実施してください。

#### (2) リンゴ黒星病

DMI剤及びQoI剤耐性黒星病の定着・拡散を防止するため、展葉期から定期的な防除が重要です。例年より展葉時期が早まると見込まれていますので、防除時期を逸さないようにしてください。

#### (3) モモせん孔細菌病

昨年はモモせん孔細菌病が多発しました。また、9～10月にかけて台風が県内に来襲、接近したこともあり、第一次伝染源である春型枝病斑（スプリングキャンカー）の発生が多くなることが予想されます。春型枝病斑は、開花期頃から認められます。春型枝病斑のせん除は摘らい、摘果作業に併せ数回行うと効果的です。発生地帯では必須の作業として行うとともに、開花始めからの定期防除も遅れないように実施しましょう。

### 4 野菜・花き関係

#### (1) タマネギのべと病

西南暖地ではタマネギべと病の注意報が発出されている県もありますので、注意が必要です。今後の降水量にもよりますが、昨年のように3月が多雨傾向の場合、多発する可能性があるため、予防防除を心掛けましょう。

#### (2) 育苗ハウス及び施設野菜等のアブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、灰色かび病等

暖冬により害虫の越冬数が平年よりも多く、発生時期も早まると思われるので、野菜・花き類の育苗ハウスではアブラムシ類やアザミウマ類等の発生を注視し、適期防除により本圃への持ち込みを避けるようにしましょう。また、ハウス内の雑草（ナズナ等）にも寄生しますので注意してください。

果菜類や花き類の施設栽培では、高温傾向によりハウス内湿度が高くなり、灰色かび病等の病害が発生しやすくなります。日中はよく換気し、予防防除を心掛けましょう。

#### (3) アブラナ科野菜のコナガ

中信地域のフェロモントラップ調査では、発生が早かった昨年の春よりもさらに3半旬早く捕獲されています。県内各地のアブラナ科野菜産地では、コナガのフェロモントラップ調査を実施していますので、今後の発生量を注視し、防除タイミングが遅れないように活用してください。

長野県病害虫防除所

次長：田中 武史 担当：堀 道広

TEL：026-248-6471

FAX：026-248-6473

E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp